

都市再生整備計画 事後評価書

平成 30 年 3 月 30 日

地区の名称	三保・新治周辺地区											
計画の期間	平成24年度	～	平成28年度	(5年間)	交付の期間	平成24年度	～	平成26年度	(3年間)	交付対象	横浜市	
計画の目標	横浜市の緑の七大拠点の一つ、「三保・新治地区」と梅田川とを結ぶ水と緑のネットワークの構築を目指して、地区内の緑地や水辺、農地、歴史的建造物等の地域資源や水辺の楽校プロジェクト等の資産を最大限に活用しながら、市民と協働して里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための里山空間を保全・創造することで、地域の環境アメニティの向上、レクリエーションの場の創出を図ることで、 地域の活性化を促進する											
計画の成果目標（定量的指標）	緑地保全制度に指定することにより、緑の減少に歯止めをかけ、環境資源を保全する。（127.3ha→150ha） 水と緑の拠点やネットワーク整備により、市民利用が行われていることで、イベントを通じて地域資源の活用が行われている。（2,009人/年→2,209人/年） 若葉台地区センターのエレベーター設置による利便性を評価する。（満足・まあ満足 0%→50%）											
定量的指標の定義及び算定式										定量的指標の現況値及び目標値		備考
① 樹林地の保全面積	当初現況値		中間目標値		最終目標値							
	(H23当初)				(H28末)							
	127.3ha				150.0ha							
② いいはる里山交流センター（旧奥津邸）の利用者数	H22当初				H28末							
	2,009人/年				2,209人/年							
③ 地区センター利用者の利用満足度	H23当初				H26末							
	満足・まあ満足 (0%)				満足・まあ満足 (50%)							
全体事業費	合計 (A+B+C)	1,437	A	1,437	B	-	C	-	効果促進事業費の割合 A (提案分) + C / (A + B + C)		2.0%	

事後評価（中間評価）

○事後評価の実施体制、実施時期											
事後評価の実施体制						事後評価（中間評価）の実施時期					
評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、学識経験者を入れた評価を実施しました。						事後評価：平成28年度末時点					
						公表の方法					
						横浜市ホームページ					

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業 【三保・新治周辺地区都市再生整備計画事業】															
A1 基盤事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H24	H25	H26	H27	H28		
12-A-5	公園	一般	横浜市	直接	横浜市	新治里山公園整備事業	用地取得1.0ha	横浜市						256	
12-A-5	地域生活基盤	一般	横浜市	直接	横浜市	三保緑地整備事業	緑地用地取得1.4ha	横浜市						239	
12-A-5	地域生活基盤	一般	横浜市	直接	横浜市	新治緑地整備事業	緑地用地取得2.6ha、整備工事	横浜市						725	
12-A-5	地域生活基盤	一般	横浜市	直接	横浜市	長津田緑地整備事業	緑地用地取得1.1ha	横浜市						189	
12-A-5	地域創造支援事業	一般	横浜市	直接	横浜市	若葉台地区センター	エレベーター設置工事	横浜市						28	提案事業
											合計	1,437			

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		若葉台地区センターのエレベーターが設置され、バリアフリー化が図れた。			
--------------------------------	--	------------------------------------	--	--	--

II 定量的指標の達成状況	指標①（樹林地の保全面積）	最終目標値	150.0ha	目標値と実績値に差が出た要因	緑地保全制度等により指定された樹林地の面積が想定以下のため。
		最終実績値	139.5ha		
	指標②（にいほる里山交流センター（旧奥津邸）の利用者数）	最終目標値	2,209人/年	目標値と実績値に差が出た要因	新治里山公園は平成24年4月に第2期エリア（約0.6ha）を開園し、広場や全天候型施設の「つどいの家」が作られたことにより、多くの方が里山文化を楽しみ、学ぶことができるようになった。さらに、平成25年4月に「にいほる里山交流センター」は、多くの市民や子供たちが森を訪れ、森を知るための拠点施設「ウエルカムセンター」として展示を整備し、季節ごとの見所などの情報発信や、自然に親しむためのイベント開催を行ったため、利用者数の増加につながった。
		最終実績値	5,850人/年		
	指標③（地区センター利用者の利便性の満足度）	最終目標値	満足・まあ満足（50%）	目標値と実績値に差が出た要因	エレベーターの設置により、階の移動の利便性が向上した。
		最終実績値	満足・まあ満足（97%）		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		緑地保全制度による指定が進んだことで、貯留・涵養機能や生物多様性、防災・減災など、樹林地が持つ多様な機能が高まった。			
--	--	--	--	--	--

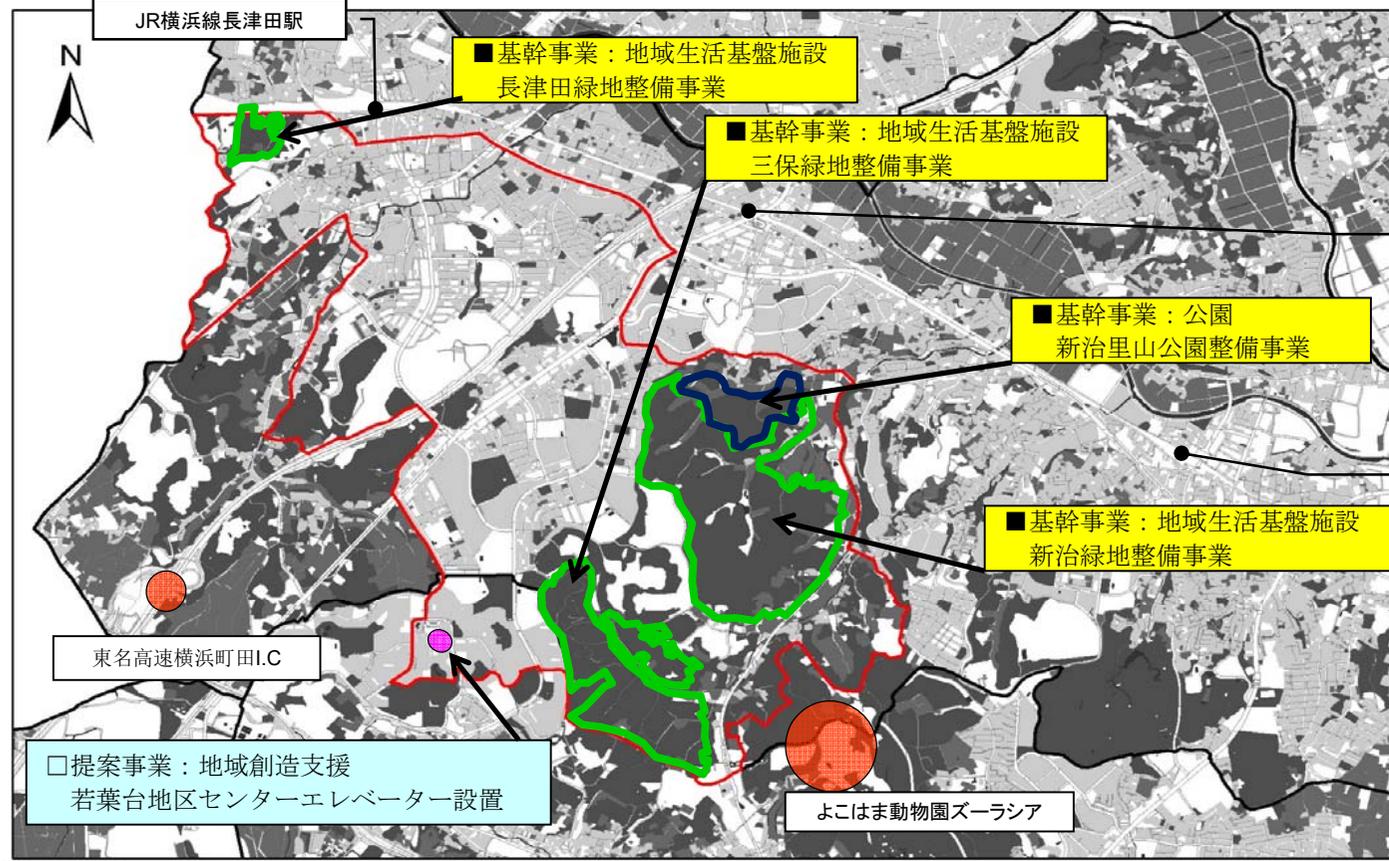
3. 学識経験者の意見

・引き続き、樹林地の保全を着実に進めてください					
-------------------------	--	--	--	--	--

4. 特記事項（今後の方針等）

市民が農を楽しみ支援する取り組みや森と市民とをつなげる取り組みを推進していく。					
---	--	--	--	--	--

計画の名称	5 三保・新治周辺地区都市再生整備計画事業	交付対象	横浜市
計画の期間	平成24年度 ～ 平成28年度 (5年間)		



凡例	
	基幹事業
	提案事業

JR横浜線十日市場駅

JR横浜線中山駅

東名高速横浜町田I.C

よこはま動物園ズーラシア

□提案事業：地域創造支援
若葉台地区センターエレベーター設置

■基幹事業：地域生活基盤施設
長津田緑地整備事業

■基幹事業：地域生活基盤施設
三保緑地整備事業

■基幹事業：公園
新治里山公園整備事業

■基幹事業：地域生活基盤施設
新治緑地整備事業

0 500 0 1,000 メートル

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	横浜市		地区名	三保・新治周辺地区			面積	657ha		
交付期間	平成24年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	1.437百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【公園】新治里山公園整備事業【地域生活基盤施設】三保緑地整備事業、新治緑地整備事業、長津田緑地整備事業										
		提案事業	【地域創造支援事業】若葉台地区センター エレベーターの設置										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
交付期間の変更	当初	平成24年度～平成28年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		緑地整備事業については平成27年度から社会資本総合整備計画への移行したが、目標値への影響はない。								
	変更	平成24年度～平成26年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	樹林地の保全面積	ha	127.3	H23	150	H28		139.5	△	あり なし ●	緑地保全制度等により指定された樹林地の買入申込面積が想定以下のため。	
	指標2	にいほる里山交流センター(旧奥津邸)の利用者数	人/年	2,009	H22	2,209	H28		5,850	○	あり なし	新治里山公園は平成24年4月に第2期エリア(約0.6ha)を開園し、広場や全天候型施設の「つどいの家」が作られたことにより、多くの方に里山文化を楽しみ、学ぶことができるようになった。さらに平成25年4月に「にいほる里山交流センター」は、多くの市民や子供たちが森を訪れ、森を知るための拠点施設「ウエルカムセンター」として展示を整備し、季節ごとの見所などの情報を発信したり、自然に親しむためのイベントを開催したため。	-
	指標3	地区センター利用満足度	%	満足・まあ満足(0)	H23	満足・まあ満足(50)	H26		97	○	あり なし	エレベーターの設置により、階の移動が楽になり、利便性が向上した。	-
4)定性的な効果発現状況	緑地保全制度による指定が進んだことで、貯留・涵養機能や生物多様性、防災・減災など、樹林地が持つ多様な機能が保全された。												

様式2-2 地区の概要

三保・新治周辺地区(神奈川県横浜市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
横浜市の緑の七大拠点の一つ、「三保・新治地区」と梅田川とを結ぶ水と緑のネットワークの構築を目指して、地区内の緑地や水辺、農地、歴史的建造物等の地域資源や水辺の楽校プロジェクト等の資産を最大限に活用しながら、市民と協働して里山の自然環境を楽しむ、体験、学習、交流するための里山空間を保全・創造することで、地域の環境アメニティの向上、レクリエーションの場の創出を図ることで、地域の活性化を促進する。	樹林地の保全面積	単位: ha 127.3 H23	150.0 H28	139.5 H28
	にいほる里山交流センター(旧奥津邸)の利用者数	単位: 人/年 2,009 H22	2,209 H28	5,850 H28
	地区センター利用満足度	単位: % 満足・まあ満足(0) H23	満足・まあ満足(50) H26	満足・まあ満足(97) H29

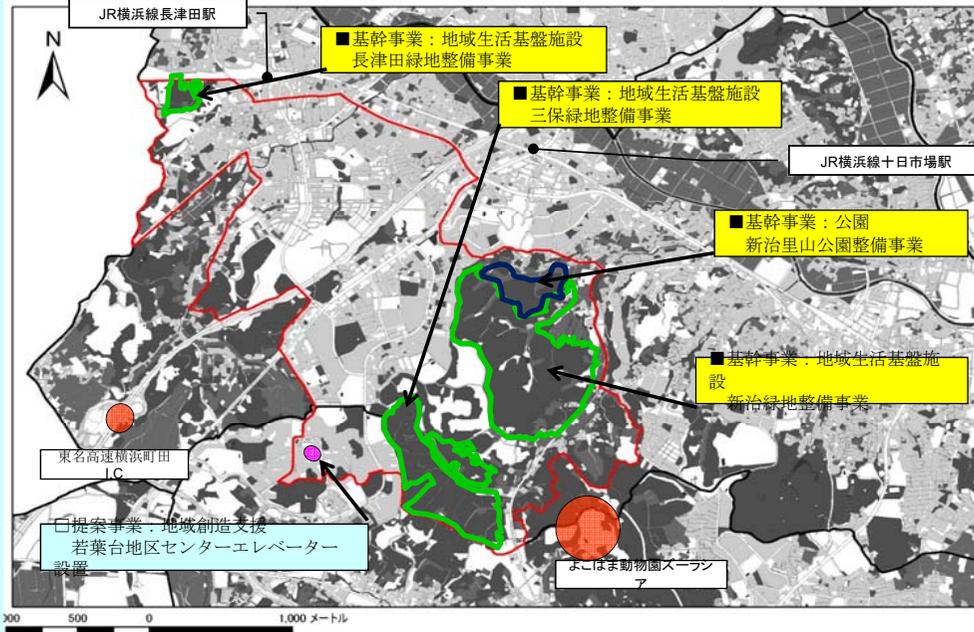
三保緑地(三保市民の森)



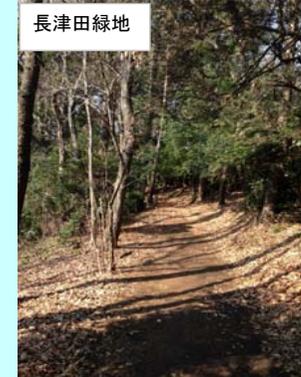
若葉台地区センターエレベータ設置工事中写真



若葉台地区センターエレベータ完成写真



長津田緑地



新治緑地(新治市民の森)



まちの課題の変化

・課題1: 緑地や農地、河川等が一体となった里山空間の保全・創造と地域の活性化が求められている。→新治市民の森と新治里山公園周辺の水田・畑及び台地の里からなる谷戸の地域と恩田川・梅田川沿いの水田地域を「新治恵の里」として、市民と農とのふれあいを通じて、地域ぐるみで農のあるまちづくりを進めており、米・麦作り教室や農業イベント等を開催している。
 ・課題2・3: 市民が自然環境を楽しむ、体験、学習、交流するための拠点整備が必要。拠点整備やイベント等の開催による来訪者の増加や農地の活用等による地域の活性化が求められている。→新治里山公園は平成24年4月に第2期エリア(約0.6ha)を開園し、広場や全天候型施設の「つどいの家」が作られ、より多くの方に里山文化を楽しむ、学ぶことができるようになった。さらに平成25年4月ににいほる里山交流センターは展示を整備し、多くの市民や子供たちが森を訪れ、森を知るための拠点施設としてのウエルカムセンターとして季節のみどころなどの情報を発信したり、自然に親しむためのイベントを開催している。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

・市民が農を楽しむ支援する取り組みや森と市民とをつなげる取り組みを推進していく。
 ・引き続き緑地保全制度等により指定された樹林地の買入れ申し出に対応します。